

中学生答辞

やわらかな日差しに、春の訪れを感じる季節になりました。華やかに薫る学園の紅白の梅や、素敵に色づいた桃色の河津桜に見送られ、卒業できることに、とても幸せを感じています。この佳き日に、私たち34期生21人は、聖徳大学附属取手聖徳女子中学校を卒業します。

連日ニュースで報道されているように新型コロナウイルスの感染拡大の為、多くのイベント等が中止されるなか、私たちのために卒業式を挙行していただきますことを卒業生一同、心より御礼申し上げます。

こうして卒業式を迎えた今となっても3年前のあの日を、昨日のことのように鮮やかに思い出します。

入学式。桜はまだ固いつぼみのままで、初めてのクラス写真の背景をどうしようかと相談しながら、皆で学校中を散歩しました。初めて出会ったクラスメイト。期待と緊張を抱えながら迎えたSFCで、一緒に多くの楽しい時間を過ごして、心の距離が近くなるのを感じました。

学校生活。小学校にはなかった作法や規律の数々にただオロオロするばかりでした。会食は配膳から片づけまで自分達でしなければならないことに驚いたのを覚えています。しかし、気付けばそれが当たり前のこととして自然に体が動くようになりました。

体育祭や聖徳祭などの学校行事。高校生の先輩方と一緒に作り上げたダンスや先輩方の出し物は、スケールが大きく感動しました。先輩方は児童保育や音楽など、将来を見据えて勉強されており、私も4月から先輩方のようになりたいと思いました。

3年次でのオーストラリア修学旅行。慣れない英語を使ってホストファミリーと意思疎通ができるか心配でしたが、単語や身振り手振りを交えて、思いを伝えることが出来ました。また、姉妹校である附属女子中学校の生徒と仲良くなることができ、音楽鑑賞会など交流できることが楽しみになりました。

この制服とともに過ごした3年間、思い出を数えあげればきりがありません。こうした楽しく充実した取手聖徳での日々は私たちが卒業してからもずっと続くと思っていました。しかし、昨年、取手聖徳女子中学校の募集を2021年度から休止するという発表がありました。その発表を聞いて初めて、この恵まれた環境は当たり前、永遠に続くものではないのだと思い知らされました。しかしそれでも、私たちの思い出が変わるわけではありません。この取手聖徳の想いは私たちの胸に息づき、迷ったとき人生の道しるべになってくれるのだと思います。ぜひ後輩たちにもこの想いを受け継いでほしいと思っています。

今日まで私達を見守り導いて下さった先生方、ありがとうございました

た。そして今日まで私達を慈しみ、いつも味方でいてくれたお父さん、お母さん、家族のみんな、本当にありがとうございました。

今後は誰かに強制されるのではなく、自分の意志で様々なことに挑戦していこうと思います。令和初の卒業生である私たちは、新しい年号と共に大きく未来に羽ばたいていきます。

最後になりましたが、取手聖徳女子中学校の更なる発展と、皆さんのご健勝を心から祈りつつ、答辞とさせていただきます。

令和2年3月5日

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校
第34回卒業生代表